

平成29年第14回教育委員会定例会（秘密会）

開会年月日 平成29年7月21日（金）
場 所 教育委員会室

出席者 教育委員会 教育長 河 口 浩
同 委 員 坂 口 節 子
同 委 員 安 藏 誠 市
同 委 員 外 松 和 子
同 委 員 長 島 良 介

議 題

3 答申

- (1) 小学校特別支援学級調査委員会および中学校特別支援学級調査委員会からの教科用図書に係る答申について

会議に出席した者の職・氏名

教育振興部長	大 羽 康 弘
こども家庭部長	堀 和 夫
教育振興部参事教育総務課長事務取扱	櫻 井 和 之
同 教育指導課長	芝 田 智 昭
こども家庭部子育て支援課長	鳥 井 一 弥

教育長

答申（1）「小学校特別支援学級調査委員会および中学校特別支援学級調査委員会からの教科用図書に係る答申について」から始める。

特別支援学級で使用する教科用図書については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第15条および学校教育法附則第9条の規定により、毎年度、採択替えができることになっている。

このため、本年4月に特別支援学級教科用図書の採択にかかる調査委員会を設置し、調査、検討をお願いした。本日、答申をいただくので順番に調査委員会からの答申内容について、説明を受けたいと思う。小学校、中学校それぞれの調査委員会委員長に入室をお願いします。

—佐野小学校特別支援学級調査委員会委員長（豊玉第二小学校長）、

南中学校特別支援学級調査委員会委員長（旭丘中学校長） 入室—

教育長

それでは、早速であるが、最初に佐野小学校調査委員会委員長から答申内容の説明をお願いする。

小学校調査委員会委員長

小学校特別支援学級教科用図書の調査研究について説明をさせていただきます。

平成29年4月28日に教育委員会から諮問を受けた。平成30年度使用の特別支援学級教科用図書の調査研究について、小学校特別支援学級調査委員会は、本日7月21日に教育委員会に答申を提出した。以下、この答申について説明させていただきます。

資料2-1をごらんいただきたい。小学校特別支援学級調査委員会は、特別支援学級設置校各校に設けられた各校研究会に対し、学校教育法附則第9条に定める図書の研究を依頼した。また、4月から3回会議を開催し、各校研究会からの報告書等を参考に慎重に研究、検討を行った。

次のページ、別紙1をごらんいただきたい。記書きの1である。調査研究を行った図書数であるが、各学校の意向を踏まえ、171冊の図書を調査研究した。内訳は、継続採択候補図書121冊、新規採択候補図書50冊である。平成30年度から、小学校では「特別の教科 道徳」が始まる。これを受けて、道徳の一般図書として31冊調査研究を行ったため、新規採用候補図書が増加している。

種目ごとの冊数については、13ページ以降に掲載しているので、お目通しいただければと思う。

次に、記書き2、調査研究における意見等である。図書の調査研究に当たっては、各校研究会の報告書を参考に、児童にとって適切であるかどうかを視点に図書の内容を整理し、調査研究した。

続いて、新規採択候補図書について説明するが、冊数が多いため、主な観点についてご説明する。

1ページの下から本が出ている。著者については、(1)から(5)5冊を調査研究した。児童の興味、関心を引く内容であること、仮名や漢字の書き順などが適切であることを中心に検討している。

社会は、(6)、(7)の2冊である。日本あるいは世界についてさまざまな観点からアプローチでき、調べ学習にも使用できると図書である。

算数は、(8)から(10)の3冊である。算数という教科に対して苦手意識を持つ児童も多いことから、児童が関心を持てることや、繰り返し学習ができることを主眼に検討している。

理科については、(11)から(16)の6冊を調査している。昆虫や植物といった内容について、写真やイラストでわかりやすく示されているか、観察をする際に教科書として使用しやすいかを中心に検討した。

音楽は、(17)、(18)の2冊である。児童にとってなじみのある曲が多く載せられている。特に(18)の「ICピアノえほん」は鍵盤がついており、鍵盤ハーモニカの指導に移行しやすいと考えている。

図画工作は、(19)の1冊である。字や絵が小さい反面、作品数の豊富さ、道具の扱

い方などが詳しく、児童によって効果的に使用できると考えている。

道徳は、(20)から(50)の31冊となる。学習指導要領の道徳に示されている4つの視点を中心、特に特別支援学級の児童ということから、自分を大切にすること、他人とのかかわりを考えること等を学ぶことができる図書が選ばれている。検討の中では、委員から多くの意見が出され、使用について留意することについても意見の委員として報告している。

参考資料として、21ページから各校研究会の研究報告である平成30年度小学校特別支援学級利用図書研究報告一覧を添付している。お目通しいただければと思う。

続いて、35ページ、別紙2をごらんいただきたい。ここに小学校特別支援学級調査委員会の審議の経過等をお示ししている。小学校特別支援学級調査委員会の答申説明は以上である。

教育長

ありがとうございます。それでは、引き続き、南中学校調査委員会委員長からの答申内容の説明をお願いします。

中学校調査委員会委員長

中学校特別支援学級教科用図書の調査研究について、説明させていただく。

平成29年4月28日に教育委員会から諮問を受けた。平成30年度使用の特別支援学級教科用図書の調査研究について、中学校特別支援学級調査委員会は、本日7月21日に教育委員会あて答申を提出した。以下、この答申について説明させていただく。

資料2-2をごらんいただきたい。中学校特別支援学級調査委員会は、特別支援学級設置各校に設けられた各校研究会に対し、学校教育法附則第9条に係る図書の研究を依頼した。また、4月から4回会議を開催し、各校研究会からの報告書等を参考に慎重に研究検討を行った。

では、1枚おめくりいただきたい。別紙1である。記書きの1。調査研究を行った図書数であるが、各校の意向を踏まえ、60冊の図書を調査研究した。継続採択候補図書44冊、新規採択候補図書16冊である。各教科の内容については7ページを、また、種目ごとの冊数及び図書名等の詳細については9ページ以降に掲載しているので、お目通しいただければと思う。

次に、記書きの2、調査研究における意見等である。図書の調査研究に当たっては、各校研究校の意見を参考に、生徒にとって適正であるかどうか、図書の内容を整理し調査研究した。

続いて、新規採択候補図書について説明する。

書写は、(1)「漢字がたのしくなる本ワーク3 部首あそび」の1冊である。部首ごとにまとめてあり、漢字の成り立ち、つくりがわかりやすくまとめてあること、生徒がクイズ形式で興味を持って学ぶことができることなどを挙げてある。

社会は、(2)「にっぽんいちず絵本」の1冊である。中学生にはもう少し漢字があったほうがよいという意見もあったが、都道府県ごとのイラストは特色をよくつかんでおり、興味を持って学ぶことができると考えている。

数学は、(3)「小学館の子ども図鑑ブレネオ 楽しく遊ぶ学ぶ かず・かたちの図鑑」の1冊である。形や大きさを具体的に捉えられるような工夫があり、カラー写真や絵が多く、興味、関心を持ちやすいのである、図書が大きく重たいため、実際に授業で使うときに使いにくいので、工夫や配慮が必要ではないかという意見があった。

理科は、(4)、(5)の2冊である。動物あるいは植物を対象としているが、いずれも写真やイラストがわかりやすく、特色をつかんだ学習ができると考えている。

美術は、(6)、(7)の「小学館あーとぶっく」の2冊である。ゴッホやモネといった作品に身近に触れることができ、洋画や色について学ぶことができる一方で、画家が限定されるため、指導に当たっては他の画家の作品も取り上げることなどが必要になると思われる。

保健体育は、(8)「知識の絵本シリーズ ひとのからだ」である。体の仕組みがわかりやすく説明されているが、初版が40年前のものであり、現在の社会に合っていないイラスト等があると考えている。

家庭科は、(9)から(11)の3冊である。(9)、(10)の2冊は調理に関してであるが、基本的な料理を扱っていて作り方もわかりやすい内容である。また、(11)は衣・食・住の基本を学ぶことができる内容で、3冊とも卒業後にも役に立つ内容であると考えている。

英語は、(12)から(16)の5冊である。(12)、(13)の2冊が会話形式であり、イラストが多く使われている。英文と和文の作品があって使いやすい一方で、吹き出しに英語と日本語が両方記載されているので授業では指導上の工夫が必要である。また、(14)から(16)はカード形式となっている。身近な題材で親しみが湧く内容であるが、カードでばらばらになる可能性があり、工夫が必要である。ただ、カードに小さく番号がふってあり、仮にばらばらになっても数字に着目させ、順番に並べるというような復元をさせる学習もできる。

次に、19ページ、別紙2をごらんいただきたい。中学校特別支援学級調査委員会の審議の経過等を記載してある。

また、参考図書として、各校研究会の研究報告をまとめた平成30年度使用中学校特別支援学級教科用図書研究報告一覧を13ページから添付している。お目通しいただければと思う。中学校特別支援学級調査委員会の答申説明は以上である。

教育長

ありがとうございます。それでは、ただいま資料に基づいて説明があった答申内容について、各委員からご意見、ご質問をお聞きしたいと思うが、いかがか。

外松委員

中学校のほうで1つお尋ねしたいことがある。3ページの保健体育、(8)である。この岩崎書店の「ひとのからだ」の絵本シリーズのよいところもさつきおっしゃっていただいて、あと、下の3項目、初版が40年前であって、イラストなどが今の暮らしや子供たちにはそぐわない部分もあるのではないか。本の点検はこれからなので、その辺がどうなのかということがある。二次性徴ということを考えてときに、中学生の内容とし

ては不十分という各校の研究会でのご意見を伺ったりすると、もしかしたらもう一度検討したほうがいいのか、それとも今まで採用されていた本で大丈夫なのか、など感じた。

教育長

保健体育は全部で4冊である。3冊は今までのもので、今回、新たに岩崎書店のものを入れた。それに何か議論はあったか。

中学校調査委員会委員長

学校イラストがちょっと古いというのは、具体的に言うと、例えば昔の子供たちはランニングで遊び回っていたというようなものか。

外松委員

はい。身体検査のときなど。

中学校調査委員会委員長

家に帰ってからもランニングと半ズボンで生活しているようなイラストが載っていて、今とちょっとずれているのかなという話題が出た。それから、3世帯で物語が流れていくところで、50幾つを超えるとお年寄りだというような文言が入っていたので、今の時代とはそぐわないという話は確かに出た。ただ、二次性徴のところも、ちょっと不十分なところがあるという意見は出たが、人の体を学んでいくという導入としては、非常にわかりやすいものであるので、ここを入り口として、さらに発展的なことを学ばせていくということではないかという話が出た。

外松委員

調査研究内容で5点挙げている中の、先に挙げている2点のよさについて、この本の中で指導していきたいと捉えるということか。わかった。ありがとう。

教育長

ほかにいかがか。

坂口委員

同じく、このことについて聞きたいと思った。ほかに何冊だったとおっしゃったか。

教育長

全部で4冊である。

坂口委員

4冊の中で岩崎書店が新たに加わり、前のものと比べると何か違った視点はあるか。

中学校調査委員会委員長

かなり多様な能力の子供たちが在籍しているという現実から考えると、比較的、障害の重い子供たちに話をしたり、使用したりするときには、今回出された本のほうが導入としては扱いやすく、子供たちも理解しやすいのではないかという考え方である。

坂口委員

先生方の調査研究で、例えば小学生の答申3ページの(10)、「学習内容として難しいので、生徒の実態に合わせた教師の指導が必要である。」、その上にも、「教師の補足が必要である。」と書かれている。教科書であるから、全ては教師の補足や指導によって、1つの材料として成り立つものが教科書だと納得いく。それぞれに力の差がある中で、全員が同じように受けとめられるわけではない。支援学級の授業の様子をみていると、ほんとうにマンツーマンであることがよくわかるので、教科書はベースであるということ納得する。

教育長

ほかにかが。初めて道徳を31冊も選んで大変だったのではないかと思うが、その辺のところは、調査委員会ではどんな議論があったのか。

小学校調査委員会委員長

たくさん本が出てきて、この本は一体何の価値を教えるために選んできたのだろうということ調査委員会の中で検討をした。

例えば、35番に「にじいろのさかな」という本があるが、きれいなうろこを持っている魚が、そのうろこをほかの魚に与えないために、1人ぼっちになってしまったと。タコのおばあさんが、それをみんなに与えればいいんだよという話をして、本来でいえば、自分のよさを発揮するという点で学校としては教材として使いたかったが、保護者の委員の方の中には、最近、生活指導上の問題で、物をあげないと仲間に入れないのではないかというような、そういった捉え方になると困るという意見も出てきた。そういった意見についても、今回、報告書の中に入れてさせていただいたところである。

教育長

なるほど。道徳の教科書を選ぶのは難しい。31冊はすごい数だと思った。

小学校調査委員会委員長

一番時間がかかった。

外松委員

感想になるが、道徳を選ぶのは大変だっただろうと思うけれども、先ほど説明をいただいたように、この31冊を選んだ視点が、自分自身を大切にすること、それから、お友達と関わっていくことに焦点を当てて選ばれた。小学生の子供たちにとって、そこがまずスタートなので、大切なことだと思いながら伺っていた。

教育長

ほかはいかがか。

坂口委員

小学校の8ページの36番のところで、「ざわざわ森のがんこちゃん」について書いてある。「テレビの話と違うので、テレビを見たことのある児童が混乱しないよう」とか、子供たちがいつも見るテレビなのかどうかよくわからないが、そのことも配慮しなければいけないということなのか。

小学校調査委員会委員長

選ばれた本の中には、NHKの放送などで取り上げられているものもあって、その中のストーリーと、実際に本として出ているストーリーが違うものについては、それを見ている子供たちが、テレビで見たイメージに引っ張られてしまわないように、きちんと教科書に向き合わせる大切だと思っている。

外松委員

それでも、これを候補としたほうがよりよいと皆さんがお考えになったということか。

小学校調査委員会委員長

道徳的な価値、自分の大切さ、友達の中で行動することについてふれているので、その内容をきちんと追わせることで、子供たちにとって道徳の授業に使える教科書であると考えた。

外松委員

わかった。ありがとう。

教育長

ほかはいかがか。よろしいか。

それでは、各委員から質問も終わった。両委員長には本当にご苦労があったと思う。くれぐれも各委員にもよろしくお伝えいただきたい。

—佐野小学校特別支援学級調査委員会委員長（豊玉第二小学校長）、

南中学校特別支援学級調査委員会委員長（旭丘中学校長） 退室—

教育長

それでは、いただいた答申を参考にしながら、見本本の点検に入りたいと思う。大体20分ぐらい点検をしていただいて、その後、会議を公開にした上で審議、決定をしていきたいと思うので、よろしく願います

—見本本の点検—